# 『鹿食免（かじきめん）』

池田　隆

蓼科の山荘で暮らす私に息子より電話が掛かってきた。「諏訪大社へ初詣に行ったら、カジキメンを二つ買って来て欲しい」という。「何？」と問い質すと、『鹿食免』と書く御札で、「肉食禁忌の時代でも、この御札を持っている者は鹿や猪などの動物の肉を食べても良かった」とのこと。馴染みのジビエ料理店と自分用に二つ欲しいらしい。

昨今、熊や猪、鹿などの野生動物による被害が大きな話題になっている。近所でも「畑を猪に喰い荒らされた」「大切に育てている庭の草木をすっかり鹿に食べられた」と嘆く方々や、網や電気柵で敷地を囲っているお宅が多い。

わが山荘の敷地にも鹿、リス、野兎などがしばしば訪れてくる。この夏にはジャム用に植えた数本のルバーブを根元から綺麗に食べられてしまった。現場を押さえたわけではないが、多分犯人は鹿だろう。周囲に鹿の糞が散らばっていた。

以前に軒に吊るした多数の干し柿が取り入れ直前に一つ残らず無くなっていた。懲りて窓のすぐ外の棚の上に大きな網篭を置き、その中心部に幾つかの渋柿を並べて干してみた。

ある朝カーテンを開けると、網の隙間から前足を必死に伸ばしているリスと数十センチの間隔で目が合う。一瞬丸い目をキョトンとさせ慌てて逃げていったが、気の毒なので半分を篭から出して傍に置いた。後刻に　確かめると跡形もない。

まだ熊には出会ったことはないが、鹿やリスなどの野生の動物は実に可愛らしい。彼らを自身で殺して食べるには心を鬼にしなければ無理だ。しかし食べると旨いし精力もつく。その心の葛藤は狩猟採集時代から農耕時代になるとますます強まった筈。そこで考えた姑息な言い訳が神様や仏様のせいにした『鹿食免』の御札なのだ。その包み紙には「輪廻転生、獣は寿命の長い人に食べられることでより長生き出来る」と人間勝手な説明が記してある。

と言いながら、私もジビエ料理用鹿肉を買い求め、御札を傍らに息子とすき焼きにして賞味した。